

2025年度
看護栄養交流センター
成果報告書
(第7号)



島根県立大学
出雲キャンパス

はじめに

平素より、看護栄養交流センターの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当センターは、島根県のあらゆる地域と大学が繋がり、住民の皆様のニーズに応えるべく社会貢献と連携に取り組んでまいりました。私たちは、看護学や栄養学に取り組む者として、子どもから高齢者、様々な職場のニーズ、国内外からの要請にも目を向けてきました。

キャリア・研究支援部は、専門職の継続教育に関する相談・支援・受託事業の企画・実施を担当する部門です。実習指導者養成講習会や看護教員継続研修は、看護の後進を育み共に育つ仕掛けです。改めて、看護実践のすばらしさを看護教育学の土台の上に展開することの難しさと楽しさを感じて頂けたと思っています。

また、地域連携推進部は、地域貢献活動や広報活動を推進する部門であり、市民公開講座やいずも健康市民大学など住民の生涯学習を推進する取り組みを行いました。島根県西部での公開講座は6講座を開講し延べ人数128名の参加となりました。セルフ・ケアに必要な知識と技術を持ち帰って頂くことは、人生を豊かにしていくことに繋がると感じています。

さらに、認定看護師養成部は、島根県の委託事業として認定看護師教育課程を設置運営し、看護職の人材認証制度の事業部です。令和8年度に開講する認知症看護認定看護師教育課程（B課程）に向けて、綿密に準備を進めてまいりました。嬉しいことは、2024年度に開講しました感染管理認定看護師教育課程の修了者全員が認定審査に合格したことです。専門性の高い看護師を島根県内外に輩出していくことは、認定看護師養成部の喜びであります。

2025年は、学部教育に4学期制100分授業の導入と自由科目を設けました。自由科目「多文化共生と地域医療」を一般市民にも公開し、出雲市に3020人ほど在住している在日ブラジル人の皆さんとの共生社会の実現に何が必要なのかを模索し、実践的視点を得ることができたと感じております。このように、日々何がこの島根に必要なのかを地域とともに考え実践していきたいと考えております。

これからも、地域とともに、学生とともに、看護栄養交流センターは活動を続けてまいります。地域の皆様から頂戴するご意見や要望は、新たな気づきになりますし、ご支援とご協力は活動の推進力になります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年3月

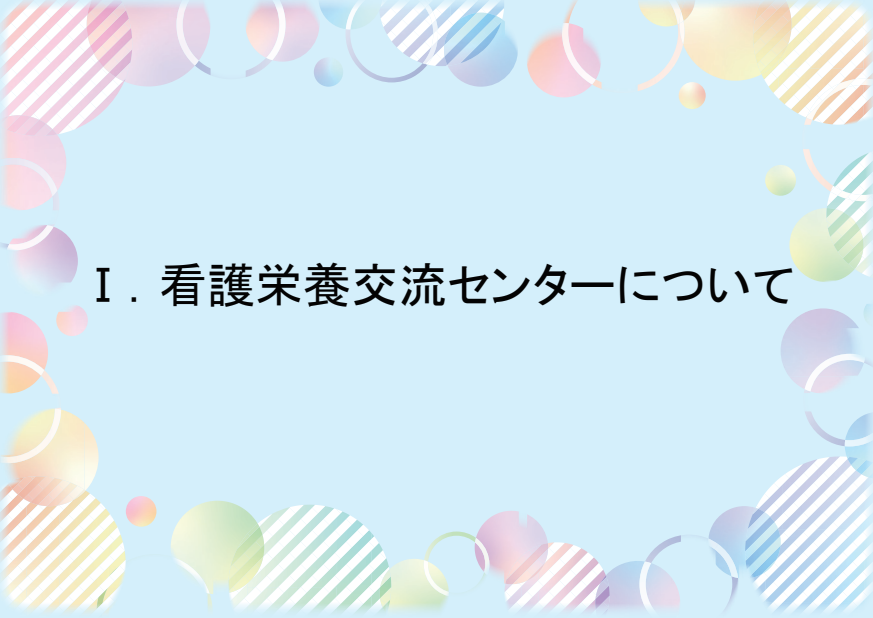
看護栄養交流センター長 大森 眞澄

目 次

はじめに

2025 年度成果報告書

I. 看護交流センターについて	1
1. 看護栄養交流センターの設置目的	
2. 事業概要	
3. 実施体制	
4. 看護栄養交流センター運営会議	
 II. 2025 年度事業実績	
1. キャリア・研究支援部	5
1) 相談窓口	
2) 委託もしくは連携事業	
3) リカレント事業	
2. 地域連携推進部	21
1) 相談窓口	
2) 地域貢献活動	
3) 広報活動	
3. 認定看護師養成部	31
 III. 資料	35



I. 看護栄養交流センターについて

I. 看護栄養交流センターについて

1. 看護栄養交流センターの設置目的

看護栄養交流センターは、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に前身の「島根県立大学しまね看護交流センター」を設置し、2018年4月に「看護栄養学部」が設置されるのに伴い、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」（以下「センター」という。）と改称した。

島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士等の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学及び栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的に、大学と地域をつなぐ拠点として設置した。

2. 事業概要

センターには、「キャリア・研究支援部」「地域連携推進部」「認定看護師養成部」の3つの部を設置し、大学の機能を活かした地域貢献活動を推進している。

1) キャリア・研究支援部

専門職（看護職、管理栄養士、栄養士）のキャリア形成、研究活動の支援ならびに研究成果を広く社会へ還元するため、以下の4つのプロジェクトを展開している。

①実践力の向上、②教育力の向上、③研究力の向上を目的とした研修事業、④保健・医療・福祉機関等への講師派遣、⑤キャリアアップを志向する社会人の学び直し等

2) 地域連携推進部

健康と看護をめぐる地域社会のニーズや課題に応え、地域と協働し、地域に開かれた大学を実現するため、①公開講座等の地域住民の生涯学習を支援する事業、②小中学生を対象とした出前講座や体験学習、③産官学連携、④地域の声を大学運営に活かすための広報・広聴活動等、幅広い活動を行っている。

3) 認定看護師養成部

認定看護師養成部では、2026年度の開講に向けて、休講していた認知症看護分野の教育課程をB課程に移行し、開講準備を行った。入学者選抜試験により6名の履修生が決定した。また、感染管理分野の修了生12名が感染管理認定看護師（B課程）の認定審査に合格した。

3. 実施体制

本センターは、島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき運営する。

1) センター構成員

センターの構成員は、出雲キャンパスに所属する全ての専任教職員である。センターには、以下の職員を置く。

(1) センター長：1名（兼務）

(2) 部長：3名（兼務）

(3) プロジェクトリーダー：（兼務）

(4) プロジェクトスタッフ：部長・リーダーを除く専任教員

(5) 管理課地域連携推進室職員：2名（兼務）

表 1 2025 年度看護栄養交流センター事業担当者

【キャリア・研究支援部】専門職の継続教育に関する相談・支援、受託事業の企画・実施を担当する部門

部長：高橋梢子 事務担当：澤田仁美

プロジェクト名	事業名	担当 ○主担当
相談窓口	相談・支援窓口業務	○澤田仁美 高橋梢子
委託もしくは連携事業	「看護職のための新生児蘇生法『専門』」	○植田恵 母性看護学教員
	実習指導者養成講習会（島根県委託事業）	○高橋梢子 林健司
	実習指導者フォローアップ研修（島根県助産師会共催事業）	隔年開催企画 2025 年度は開催なし
	看護教員継続研修事業（島根県委託事業）	○高橋梢子 安部史子
	臨床看護研究計画書立案研修 （島根県看護協会連携事業）	○大塚美樹
リカレント事業	履修証明プログラム	○澤田仁美 大森眞澄
	看護管理コンソーシアムしまね	○高橋梢子 藤原晃治

【地域連携推進部】地域貢献活動・広報活動を推進する部門

部長：中谷陽子 事務担当：藤原晃治

プロジェクト名	事業名	担当 ○主担当
相談窓口	自治体や地域のコミュニティ等からの講師派遣や研修事業等に関する相談・支援を行う	○藤原晃治 中谷陽子
地域貢献活動	公開講座（一般対象・関係機関との連携講座）	○中谷陽子 松谷ひろみ 荒井恵美子
	ぎんざんテレビ出前講座	○中谷陽子
広報活動	「いずも産業未来博」出展	○荒井恵美子 安部史子
	高大社連携事業（中学生も含む）	○松谷ひろみ 高橋梢子 澤田仁美

【認定看護師養成部】県の委託事業として認定看護師教育課程を設置運営する、看護職の人材認証制度の事業部

部長：林健司 事務担当：的場好信・澤田仁美・藤原晃治

プロジェクト名	事業名	担当 ○主担当
認定看護師リカレント教育	フォローアップに関すること	○荒木さおり 林健司
認知症看護認定看護師教育課程の運営	教育課程の運営に関すること	○荒木さおり 林健司

4. 看護栄養交流センター運営会議

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、学内の教職員を構成員とする島根県立大学看護栄養交流センター運営会議を開催し、センターの運営に関すること、事業計画の策定及び進行管理に関すること、その他センターの運営に必要なことについて協議し、2025年度は2回開催した。

1) 看護栄養交流センター運営会議構成員

表2 看護栄養交流センター運営会議構成員

看護栄養交流センター運営会議構成員名簿

構成員	職名	氏名
副学長	教授	大森 眞澄
看護栄養学部長	教授	高橋 恵美子
看護学科長	教授	岡安 誠子
別科長	教授	狩野 鈴子
健康栄養学科長	教授	原田 永勝
看護栄養交流センター長	教授	(兼) 大森 眞澄
キャリア・研究支援部長	准教授	高橋 梢子
地域連携推進部長	准教授	中谷 陽子
認定看護師養成部長	准教授	林 健司
地域連携推進委員会委員長	教授	(兼) 大森 眞澄
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 中谷 陽子
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 林 健司
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 高橋 梢子
地域連携推進委員会委員	准教授	荒井 恵美子
地域連携推進委員会委員	講師	松谷 ひろみ
地域連携推進委員会委員	講師	荒木 さおり
地域連携推進委員会委員	助教	安部 史子
事務部長/管理課長(事務取扱)(地連委員)		的場 好信
学務課長		宮苑 仁美
事務局(管理課地域連携推進室長・地連委員)		澤田 仁美
事務局(管理課地域連携推進室・地連委員)		藤原 晃治

2) 看護栄養交流センター運営会議開催状況

(1) 第1回センター運営会議

開催日：2025年5月12日（月） 11：00～11：30

場 所：Teams によるオンライン会議

出席者：13名（3名欠席）

議 事：①2025年度事業計画・事業担当者について
②その他

(2) 第2回センター運営会議

開催日：2026年2月16日（月） 15：30～16：00

方 法：Teams によるオンライン会議

出席者：16名（欠席なし）

議 事：①島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター認定看護師教育課程規程及び認定看護師教育課程規程実施要項の改正について
②2026年度事業計画について
③2025年度看護栄養交流センター事業報告について

Ⅱ－１．2025 年度事業実績
－キャリア・看護研究支援部－

I. 保健・医療・福祉機関等への講師派遣

1. 目的

病院等からの依頼に応じ、本学教員のもつ専門的知識や技術及び研究成果である「知」を提供する。

2. 事業内容

保健・医療・福祉機関等への講師派遣依頼に対する対応および講師の調整

3. 事業実施状況および成果

2025 年度の保健・医療・福祉機関への講師派遣の実施状況一覧を表に示した。

2025 年度の講師派遣の実績は 68 件であった。依頼元種別をみると、医療機関 35 件、職能団体 20 件、その他 13 件であった。

4. 課題

講師派遣依頼は、年々ニーズが高まっており、教育研究活動とのバランスが課題である。

講師派遣実施状況一覧

	依頼元 種別	実施日	依頼元	内容	担当者
1	医療機関	5 月 31 日	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導	高橋梢子准教授
2	医療機関	5 月 31 日	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導	平井由佳准教授
3	医療機関	4 月 1 日～	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導	高橋梢子准教授
4	医療機関	4 月 1 日～	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導	平井由佳准教授
5	医療機関	5 月 1 日～	安来第一病院	看護研究指導・講師	松谷ひろみ講師
6	医療機関	5 月 8 日	島根県立中央病院	研修会講師	岡安誠子教授
7	医療機関	5 月 20 日	浜田医療センター	看護研究指導 講師	川瀬淑子教授
8	医療機関	6 月 6 日	四国こどもとおとなの医療センター	看護研究指導 講師	奥山真由美教授
9	医療機関	6 月 18 日	島根県立中央病院	臨床実習指導者研修 講師	川瀬淑子教授
10	医療機関	7 月 7 日	松江医療センター	看護研修 講師	平井由佳准教授
11	医療機関	7 月 19 日～	隠岐広域連合隠岐病院	看護研究計画書指導 講師	田原啓子准教授
12	医療機関	7 月 24 日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋講師
13	医療機関	7 月 24 日	松江医療センター	看護研修 講師	平井由佳准教授
14	医療機関	8 月 4 日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋講師
15	医療機関	8 月 5 日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
16	医療機関	8 月 22 日	松江医療センター	看護研究 講師	高橋梢子准教授

17	医療機関	8月26日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子教授
18	医療機関	8月28日	松江医療センター	看護研究 講師	高橋梢子准教授
19	医療機関	9月1日	島根県立中央病院	看護研修 講師	岡安誠子教授
20	医療機関	9月8日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋講師
21	医療機関	9月17日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
22	医療機関	9月17日	四国こどもとおとなの医療センター	看護研究 講師	奥山真由美教授
23	医療機関	9月18日	松江医療センター	看護研修 講師	平井由佳准教授
24	医療機関	9月25日	日野病院組合 日野病院	院内研修 講師	西本亜希子講師
25	医療機関	10月3日	出雲市立総合医療センター	研究発表会 講師	佐藤美紀子准教授
26	医療機関	10月17日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋講師
27	医療機関	10月28日	松江赤十字病院	看護研修 講師	高橋梢子准教授
28	医療機関	10月31日	鳥取大学医学部附属病院	看護研修 講師	高橋梢子准教授
29	医療機関	11月17日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋講師
30	医療機関	11月19日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
31	医療機関	11月21日	島根県立中央病院	看護研修 講師	永井真寿美講師
32	医療機関	12月3日	四国こどもとおとなの医療センター	看護研究 講師	奥山真由美教授
33	医療機関	12月18日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子教授
34	医療機関	2月5日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子教授
35	医療機関	2月14日	四国こどもとおとなの医療センター	看護研究 講師	奥山真由美教授
36	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	バースデープロジェクト 講師	植田恵助教
37	職能団体	7月14日	岡山県看護協会	教育研修 講師	奥山真由美教授
38	職能団体	7月29日～	島根県助産師会	バースデープロジェクト 講師	柳楽茉耶囑託助手
39	職能団体	7月30日	島根県看護協会	研修会 講師	高橋梢子准教授
40	職能団体	8月4日	島根県看護協会	再就業チャレンジ講習会 講師	渡邊克俊講師
41	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	大塚美樹教授
42	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	川瀬淑子教授
43	職能団体	8月13日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	中谷陽子准教授
44	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	荒木さおり講師
45	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	日野雅洋講師
46	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	佐藤基講師
47	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	松谷ひろみ講師

48	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	佐藤美紀子准教授
49	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画書立案研修 講師	松本祐香助教
50	職能団体	8月19日	島根県看護協会	新人看護職員研修 講師	岡安誠子教授
51	職能団体	8月19日	島根県看護協会	新人看護職員研修 講師	高橋梢子准教授
52	職能団体	10月17日	島根県看護協会	新人助産師研修 講師	柳楽茉耶嘱託助手
53	職能団体	10月24日	島根県看護協会	教育担当者研修会 講師	岡安誠子教授
54	職能団体	11月16日	島根県看護協会	研修会 講師	加藤さゆり講師
55	職能団体	1月24日	島根県看護協会	研修会 講師	小田美紀子教授
56	その他	5月13日	島根県グランドゴルフ協会	フレイル予防研修会 講師	澤幸子准教授
57	その他	5月29日	介護労働安定センター	認知症研修会 講師	荒木さおり助教
58	その他	7月23日	法政大学大学院	講演会 講師	田原啓子准教授
59	その他	7月28日	介護労働安定センター	認知症研修会 講師	荒木さおり講師
60	その他	7月29日	島根県教育センター	養護教諭研修会 講師	渡邊克俊講師
61	その他	7月29日	島根県教育センター	養護教諭研修会 講師	佐藤基講師
62	その他	9月25日	全国健康保険協会島根支部	研修会 講師	小川智子准教授
63	その他	11月4日	島根県社会福祉協議会	感染症対策への研修会 講師	坂根圭子嘱託助手
64	その他	11月18日	島根県建設技術協会特別会	講演会 講師	小田美紀子教授
65	その他	2月14日	浜田市災害復興活動展実行委員会	国際シンポジウム モデレータ	大森眞澄教授
66	その他	2月17日	鰐淵地区社会福祉協議会	認知症研修会 講演講師	祝原あゆみ講師
67	その他	3月5日	山陰中央新報文化センター出雲教室	食と健康に関する特別講座 講師	福田詩織助教
68	その他	3月19日	山陰中央新報文化センター出雲教室	食と健康に関する特別講座 講師	福田詩織助教

Ⅱ. 受託研究

1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

2. 事業内容

2025 年度は、以下の研究を受託し、実施した。

表 1 2025 年度受託研究実施一覧

	委託者	研究題目	研究者代表者	受託金額（円）
1	島根県	ライフスタイルに適応した生産・販売を目的とする 島根米の特性の見える化	籠橋 有紀子 教授	500,000
2	島根県	健康な食環境づくり事業	石田 千津恵 助教	151,800
3	株式会社しちだ・教育研究所	七田式いきいき脳開発プログラム事業	西本 亜希子 講師	135,626
4	全国健康保険協会島根支部	R7医療費等分析事業	小川 智子 准教授	67,357
5	益田市共同研究	萩・石見空港を利用したUniversal MaaSの推進	田原 啓子 准教授	524,000

3. 成果及び課題

今年度の実施件数は 5 件だった。

今後も看護栄養交流センターのホームページの充実に努め、委託希望があれば対応を行う。

Ⅱ－１．看護研究力の向上(個別研究支援・看護)

１．目的

研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし，立案された看護研究計画に基づき，個別的で継続した研究指導を行い，研究実施につなげる。

２．事業内容

原則として「臨床看護研究計画書立案研修」を受け，研究計画が立案できており，実際に看護研究を行う予定の個人またはグループ（１課題）を対象とし，研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし，研究実施につなげる。

３．事業実施状況

今年度，継続２件，新規３件の個別研究支援を行った。

４．成果

研究指導により研究を遂行し，学術集会等での研究発表に繋がった。

５．課題

本事業は臨床看護研究計画書立案研修を受講し，研究計画書が完成している人を対象にしており，引き続き支援希望者のニーズに沿った臨床看護研究計画立案研修のあり方と研究指導について検討が必要である。

Ⅱ－2. 栄養に係る専門職の研究力の向上(個別研究支援・健康栄養)

1. 目的

管理栄養士・栄養士等の研究活動を支援することを目的に、相談に応じた総合的な研究支援を行い、実践現場における問題解決に直結した研究支援を実施する。

2. 事業内容

申請条件は特に設けず、病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士等の研究テーマや必要とする支援内容に応じて、個別指導を行う。

3. 事業実施状況

今年度、新規の個別研究申請はなかった。

4. 課題

各現場における本事業の認知度が低いため、ホームページ等による積極的な広報活動を実施し、個別研究申請の増加に繋げることが必要である。

Ⅲ－１．看護研究力の向上（共同研究・看護）

１．目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

２．事業内容

原則として、研究計画が立案できており、実際に研究を行う予定の個人またはグループ（１課題）が対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

３．事業実施状況

今年度、新規の共同研究申し込みはなかった。

４．課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRや、効果的な周知方法、共同研究の可能性等についての検討が必要である。

Ⅲ－2. 栄養に係る専門職の研究力の向上(共同研究・健康栄養)

1. 目的

研究テーマに応じて、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

2. 事業内容

病院，施設，行政，企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士の研究ニーズに応じて，教員が研究活動に参画する。

3. 事業実施状況

今年度は、指導すべき新規の共同研究申請はなかった。

4. 課題

共同研究の申請が少ないことから，本事業についての積極的な周知と同時に，共同研究への可能性等について検討を進めていく必要がある。

I. 島根県看護職員実習指導者養成講習会

1. 目的

看護師等学校養成所の実習施設において実習指導を担当する者又は将来実習指導者となる予定の者が、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう、必要な知識・技術を修得させ、もって実習指導者の資質の向上と看護実習の強化を図ることを目的としている。

2. 事業内容

島根県より「島根県看護職員実習指導者養成講習会実施事業」の委託を受け、厚生労働省の保健師助産師看護師実習指導者講習会の実施要綱に基づきカリキュラムを作成し実施した。(次ページ参照)

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2025 年 5 月 14 日（水）～2025 年 9 月 4 日（木）
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 参加者：島根県内の病院の看護職 23 名（17 施設）
- 4) 講 師：次ページ参照

4. 成果

今年度は 17 施設 23 名から受講申請があり、120 時間の e-ラーニングと 1 か月間の対面での講義・演習を終え、23 名全員に修了証が授与された。アンケート結果によれば、プログラムの内容、運営、活用度についてはおおむね良好であった。

指導案作りでは、希望をとり 4～5 名グループで編成したところ、基礎 1 グループ、成人 2 グループ、精神 1 グループ、老年 1 グループ、小児・母性 0 グループであった。ディスカッションの時間が十分に取れ、充実した時間となり、満足のいく指導案が完成したようだ。受講者間の交流を通し、実習指導者としての役割の理解、資質の向上が図れたと考える。

5. 課題

e-ラーニングについては「難しかった」「勤務しており時間がなかった」といった回答が複数あった。e-ラーニング中に通常勤務が重なると、受講生への負荷が大きい。引き続き、参加施設の管理者への理解を求める必要がある。また、エアコンが利きにくい、準備していた USB に不具合があった、コピーが会議の都合でできなかった、などの不都合があった。これらについては運営側で対策が必要である。

区分	内容	授業科目	学習目標および内容		講師	所属役職
基礎分野	教育の基礎	教育原理	教育の本質の基本知識、概念及び必要な理論を学ぶ。 1. 教育の本質、目的 2. 教育活動の特性			e-learning
		教育方法	教育の基本的な方法や技術、評価方法について理解する 1. 授業形態、教育方法及び教材の活用 2. 教育方法、等			e-learning
		教育心理	人間の発達と学習過程における心理的な特徴について人間の成長・発達段階に合わせて理解する。 1. 成長発達に伴う学習者心理の理解 2. 学習過程における心理 等			e-learning
		教育評価	教育評価の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 1. 教育評価の目的と方法 2. 講義・演習・実習評価の方法 等			e-learning
専門分野	看護論	看護論	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護についての視野を広げ、自己の看護観を明確にする。 1. 看護の機能と役割 2. 看護場面と看護観の再構成 3. 健康の概念と健康支援 4. 倫理的課題とその対応方法 等			e-learning
	看護教育課程	看護教育課程論	看護師等養成所の各教育課程の概要を学び実習指導につなげる 1. 看護教育課程の基礎知識			e-learning
	実習指導の基盤	実習指導方法論 (評価を含む)	実習指導案について理解し、教授方法を学ぶ。 1. 実習指導の方法 2. 実習評価の意義と方法 等	実習指導概論	高橋 恵美子	島根県立大学看護栄養学部/教授
				実習指導計画	岡安 誠子	島根県立大学看護栄養学部/教授
				実習指導の評価	川瀬 淑子 大塚 美樹	島根県立大学看護栄養学部/教授
			各専門領域の実習指導の展開を学ぶ。	基礎看護学実習	高橋 梢子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
			1. 領域別の実習の考え方	成人看護学実習(急性期)	渡邊 克俊	島根県立大学看護栄養学部/講師
			2. 領域別実習指導の展開	成人看護学実習(慢性期)	佐藤 美紀子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
				老年看護学実習	加藤 さゆり	島根県立大学看護栄養学部/講師
				精神看護学実習	松谷 ひろみ	島根県立大学看護栄養学部/講師
				小児看護学実習	佐藤 基	島根県立大学看護栄養学部/講師
				母性看護学実習	永井 真寿美	島根県立大学看護栄養学部/講師
				在宅看護学実習	田原 啓子	島根県立大学看護栄養学部/准教授
		実習指導方法演習	実習指導の展開の実際を学ぶ。 1. 実習指導案の作成及び評価(課程別、学年別、専門領域別等) 2. 実習の評価	基礎看護学実習	岡安 誠子 高橋 梢子	島根県立大学看護栄養学部/教授 島根県立大学看護栄養学部/准教授
				成人看護学実習	佐藤 美紀子 渡邊 克俊	島根県立大学看護栄養学部/准教授 島根県立大学看護栄養学部/講師
				老年看護学実習	荒木 さおり	島根県立大学看護栄養学部/講師
				精神看護学実習	松谷 ひろみ	島根県立大学看護栄養学部/講師
			3. 実習指導案発表			島根県立大学看護栄養学部/担当教員
			4. まとめ			
島根における地域医療の現状と展望					島根県健康福祉部医療政策課/課長	

Ⅱ. 島根県看護教員継続研修

1. 目的

看護教員のキャリアアップを支援する事業として、看護教員としての資質・能力の向上を図り、看護基礎教育の一層の充実を図る。

2. 事業内容

島根県より「島根県看護教員継続研修」の委託を受け、研修会の運営・実施（企画担当／県）を行った。研修は、全ての看護教員を対象とした『組織力を高める研修』、『教育力を高める研修』を実施した。

3. 事業実施状況

教育力を高める研修

- 1) 日 時：2025 年 8 月 23 日（土）10：00～16：00
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 講 師：北川 明氏（順天堂大学 保健看護学部 教授）
- 4) テーマ：発達障害およびパーソナリティ障害の基本と教育支援の方法
- 5) 対 象：島根県内看護教員
- 6) 参加者：33 名

4. 成果

今回の研修は、事例や事例を交えた講義で、発達障害やグレーゾーン学生への対応方法が具体的に分かりやすく、教員としての意識改革にも繋がり、満足度の高い研修となった。

5. 課題

今後の開催形態について、①年に 1 回にするか、②臨床指導者との合同開催を隔年で行うか、③本学大学院の看護教育学の授業を一部研修用に公開するか、検討の必要がある。



Ⅲ. 臨床看護研究計画書立案研修

1. 目的

臨床看護研究に取り組む予定の看護職が、看護研究の基本とプロセスを理解し、研究テーマの記述、研究計画書のアウトラインを示すことができるように支援することで、臨床看護研究の実施につなげる。

2. 事業内容

令和7年8月18日（月）、19日（火）の10時～16時に島根県立大学で行った。研修内容は、1日半が臨床看護研究に必要な基礎的な内容の講義であり、「看護研究とは」、「文献検索・研究倫理」、「量的研究Ⅰ・Ⅱ」、「質的研究Ⅰ・Ⅱ」、「看護研究計画書の書き方」、「研究計画の実際（演習）」で構成された。半日は「研究計画の実際」の演習であり、グループに分かれ各グループの担当講師が支援を行った。

3. 事業実施状況

定員15名のところ、申込者数が19名であり、応募率は100%以上であった。19名を受講者として実施した。

4. 成果

受講者は漠然としたテーマをもつ者から計画書を作成している者がおり、準備状態にばらつきがあった。「研究計画の実際（演習）」は、グループ担当の講師が、受講者の準備状態に合わせ支援した。受講者の受講後のアンケートでは、研修内容の理解度、実践への活用度は、いずれも「そうである」「まあそうである」を合わせて100%であった。研修の満足度は「そうである」「まあそうである」を合わせて100%であった。

5. 課題

本研修の対象は、研究に関するテーマあるいはキーワードを挙げることができる者としているが、受講者の準備状態にばらつきがあった。「研究計画の実際（演習）」では、受講者の準備状態に合わせた支援を行う必要がある。

IV. 出雲市 児童虐待防止推進研修事業

1. 目的

近年増加傾向にある子どもの発達障がいおよび特有の家族特性をもつステップファミリーについての知識を得ることにより、それぞれが直面しやすい課題を理解し、課題への取り組みを考える機会とする。具体的には、子どもの発達特性と対人スキルを学ぶことにより、適切な支援につなげる。また、ステップファミリーの概念と良好な家族関係の構築に向けた支援方法を学ぶ。

2. 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市役所子ども未来部）と島根県立大学出雲キャンパス（教員6名）の協働による「児童虐待防止と対応講座」の企画・運営を行った。対象は、一般市民、保健医療福祉関係者、教育関係者、行政関係者、学生である。

3. 事業実施状況

表 プログラム概要と参加者数

会場：島根県立大学出雲キャンパス

	第1回	第2回
日 時	2025年9月20日（土）13：30～16：00	2025年11月29日（土）10：00～12：30
テーマ	発達障がいのある子どもの理解と家族支援	ステップファミリーへの理解を深める
内 容	【講演】 「発達障害があってもなくても～子育て支援から始める支援や対応～」 ・講師：横山 浩之 氏 （福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 医学部小児科学講座 教授） 	【講演】 「ステップファミリーとはどのような家族か？子どもを中心に離婚・再婚と家族を再検討する」 ・講師：野沢 慎司 氏 （明治学院大学 社会学部社会学科 教授） 
参加者数	129名	61名

4. 成果

参加者の満足度は第1回、2回ともに高く、有意義な内容であったと考える。

第1回研修会は、発達障害のある子どもの特徴、子育てにおけるポイント、ペアレントトレーニングなどの講義であり、参加者からは引き続き講演を希望する声もあり好評であった。また、約130名の参加があり、テーマに対する関心の高さがうかがわれ、継続して取り組むべきテーマであると考えられる。

第2回研修会は、ステップファミリーについて初めて取り上げ、基本的知識にくわえ、ステップファミリーが抱える問題等について具体的に講義いただき、多くの学びと示唆が得られた。フロアからの質問により、学校現場等でも対応に悩む事例があることがわかり、こちらも今後も継続して取り組むべきテーマであると考えられる。

5. 課題

- 1) 単年度の取り組みとしては、参加者には一定の満足度があり評価できると考えるが、単年度でなく、経年的な取り組みとして計画的に実施し、評価をしていく必要がある。
- 2) 研修会参加者数は、テーマや開催日程などによって変動があるが、あまり多くない状況が続いている。講師や講演内容により、PRの対象や方法を工夫する必要がある。

I. 履修証明プログラム

1. 目的

大学が集積している知を活かして，看護栄養学部（看護学科・健康栄養学科），研究科，別科，看護栄養交流センター等が構築した履修証明プログラム（60 時間以上）を周知し，キャリアアップを志向する受講者の学習支援を行う。

2. 事業内容

社会人を対象とし，大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された，体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムを構築し，社会人等の多様なニーズに応じた様々な学習機会を提供する。プログラム修了者に対しては，大学から履修証明書を交付する。

3. 事業実施状況

履修証明プログラム制度は，2023 年度秋季から開始した。「食品の機能分析の活用及び研究・実践プログラムⅡ」について 1 名が受講中である。

4. 課題

看護学研究科主体のプログラムからスタートしたが，看護栄養交流センター独自のプログラムの編成や，学部や別科主体のプログラム等も進めたいと考える。プログラムの認知度を上げるため，積極的な事業のPRなど，効果的な周知を行っていく。

Ⅱ. 看護管理コンソーシアムしまね

1. 目的

コンソーシアムは、島根県内に所在する医療機関に勤務する、看護管理者のマネジメント力の育成に向けた主体的学習を支援することを目的とする。

2. 事業内容

- ① 看護管理者版 e ポートフォリオ「ENISHI」の開発・運用
- ② 「実践知」の創出・共有する場の運用
- ③ 研修会などリソースの情報提供
- ④ 看護の代表者間の交流・情報共有のネットワークづくり
- ⑤ 看護管理に関する講演会の企画・実施

3. 事業実施状況

■第4回講演会

日時：2025 年 11 月 18 日（火）15：00～16：00

テーマ：看護の生産性を看護管理から考える

講師：福井トシ子先生（国際医療福祉大学）

場所：Zoom（オンデマンド配信あり）

参加者：8 施設（80 名）

■第11回カタリバ

日時：2025 年 7 月 29 日（火）13：00～14：30

テーマ：データで見る看護職確保への課題

話題提供者：遠藤智弘氏（島根県健康福祉部医療政策課 看護職員確保スタッフ）

参加者：17 施設（26 名）

■第12回カタリバ

日時：2026 年 3 月 6 日（金）13：00～14：30

テーマ：目標管理面接で使えるコーチングスキル

話題提供者：小田美紀子先生（島根県立大学）

参加者：10 施設（24 名）

4. 成果

講演会は、会員向けのみ実施年に行っているが、80 名もの参加があり、ニーズにあったテーマ・講師であったと考える。年に 2 回あるカタリバでは 1 回はトップマネージャークラス向け、1 回は師長・副師長向けと対象を変えたテーマとすることにした。その結果アンケート結果によると、いずれも満足度の高い内容となっている。その結果、参加者層に違いがあり、年間通して多くの方に参加してもらえる場となった。また、講演会でも講演会でも、参加者の満足度の高い内容となっている。

5. 課題

カタリバはテーマにより参加者にばらつきがあり、県内看護管理者のニーズに合わせてテーマ選定が課題である。

Ⅱ－2. 2025 年度事業実績
－地域連携推進部－

I. 地域、団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護・栄養に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

看護栄養交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求める。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

個別に問い合わせのあった団体等へ担当職員が講師派遣のコーディネートを行った。講師の派遣依頼は、2025年4月から2026年3月まで継続的にあり、看護栄養交流センター地域連携推進部にて出前講座の依頼を受け付けた。

2026年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にした。

4. 成果

2025年度は、17件の出前講座を実施した。依頼元は、地域のコミュニティセンターやNPO法人等があり、内容は、健康維持、防災、介護予防が多数を占めた。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護・栄養に関する知識や技術などを学ぶ機会として期待されている状況がうかがえる。

5. 課題

地域や団体からの依頼が減ったため、昨年度と比較し講座の開催数が減少した。

過去に好評であった講座の再依頼や希望テーマの偏りなどから特定の教員に依頼が集中することがあった。

依頼元への他の講師や関連するテーマの紹介などの調整により、特定の教員に過度な負担がかかることのないようにする必要がある。

表5 2025年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	小田 美紀子	11	6	島建特別会	元気で長生きできる日常生活
2	高橋 梢子	11	11	鳶巣コミュニティセンター	高齢者宅訪問実習をととしての講演会・講師
3	林 健司	4	24	荒木コミュニティセンター	セラバンド体操教室
4	林 健司	9	10	すこやかクラブ	お口の健康
5	澤 幸子	5	13	島根県グラウンド・ゴルフ協会	フレイル予防
6	渡邊 克俊	6	9	直江地区災害対策委員会	防災講演会の講師
7	渡邊 克俊	11	9	大東地区自主防災連絡協議会	自治会防災委員を対象として開催する研修会
8	渡邊 克俊	11	13	(株) ハート	一次救命処置、応急処置
9	荒木 さおり	6	8	イトオテルミー出雲	認知症予防

10	荒木 さおり	9	10	すこやかクラブ	お口の健康
11	佐藤 基	10	4	鳶巣コミュニティセンター	びよっこ教室救急法・講師
12	松谷 ひろみ	1	16	出雲市	しなやかなこころを育てるメンタルヘルス講座
13	祝原 あゆみ	9	14	乙立地区社会福祉協議会	回想法の講話と体験
14	祝原 あゆみ	2	12	特非)なないろネット	総合事業「なないろ教室」・講師
15	祝原 あゆみ	2	16	特非)なないろネット	総合事業「なないろ教室」・講師
16	祝原 あゆみ	2	17	鰯淵地区社会福祉協議会	認知症研修会・講演講師
17	松本 祐香	9	10	すこやかクラブ	お口の健康

Ⅱ. 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

3. 事業実施状況

表1 2025年度 小中高校等出前講義実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	加納 尚之	9	16	島根県立出雲高等学校	スーパーサイエンスハイスクール・課題研究指導員
2	加納 尚之	2	3	島根県立出雲高等学校	スーパーサイエンスハイスクール・課題研究指導員
3	小田 美紀子	11	19	出雲市立荘原幼稚園	保護者対象の講演会 講師
4	小田 美紀子	12	20	益田市立益田中学校	保護者対象の講演会 講師
5	狩野 鈴子	7	10	島根県立農林高等学校	性に関する講演会 講師
6	狩野 鈴子	10	31	出雲市立第二中学校	性と学習支援 講師
7	狩野 鈴子	11	4	島根県立出雲工業高等学校	性に関する講演会 講師
8	狩野 鈴子	11	7	出雲市立西野小学校	性と学習支援 講師
9	狩野 鈴子	12	18	出雲市立北陽小学校	性と学習支援 講師
10	狩野 鈴子	1	22	出雲市立神西小学校	いのちの尊さに関する学習支援 講師
11	中谷 陽子	6	26	出雲市立第三中学校	総合的な学習の探求 講師
12	中川 忠彦	5	28	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探求 講師
13	中川 忠彦	9	17	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探求 講師
14	中川 忠彦	3	16	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
15	吉松 恵子	11	13	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
16	渡邊 克俊	3	16	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
17	加藤 さゆり	5	28	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探求 講師
18	加藤 さゆり	9	17	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探求 講師

19	日野 雅洋	5	28	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探究 講師
20	細田 耕平	11	21	松江市立湖南中学校	栄養・健康に関する講演 講師
21	安部 史子	9	17	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探究 講師
22	板持 智之	11	13	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
23	福田 詩織	11	6	島根県立大社高等学校	保護者対象の研修会 講師
24	福田 詩織	10	28	島根県立浜田高等学校定時制	食育講演会 講師
25	川谷 真由美	5	28	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探究 講師
26	川谷 真由美	9	17	島根県立平田高等学校	総合的な学習の探究 講師
27	植田 恵	1	21	松江市生馬小学校	バースデープロジェクト 講師
28	植田 恵	1	23	出雲市立高松幼稚園	バースデープロジェクト 講師
29	植田 恵	2	5	出雲市立高松小学校	バースデープロジェクト 講師
30	植田 恵	2	6	おおつか保育園	バースデープロジェクト 講師
31	柳楽 茉耶	7	29	浜山保育園	バースデープロジェクト 講師
32	柳楽 茉耶	8	1	荘原保育園	バースデープロジェクト 講師
33	柳楽 茉耶	9	18	平田保育所	バースデープロジェクト 講師
34	柳楽 茉耶	12	25	北陵幼稚園・北陵保育園	バースデープロジェクト 講師
35	山本 雅子	1	21	松江市立生馬小学校	バースデープロジェクト 講師

4. 成果と課題

今年度は、高大連携による出前講座が 18 件、小中学校への出前講座が 10 件、幼稚園・保育園への出前講座が 7 件あった。昨年度より件数は減ったが、計 35 件の依頼があり、出前講義のニーズは高いことがうかがえる。このため、教員に過度な負担がかからないようにする必要がある。

プロジェクト名：地域貢献活動

I. 公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

2. 事業内容

公開講座は3講座、いずれも健康市民大学は8講座を、対面で開催した。

また、2025年度は、浜田市・益田市においてもフレイル予防をテーマにした講座を各6講座実施した。

3. 事業実施状況（表1、表2、表3）

公開講座、いずれも健康市民大学の終了時にアンケートを実施した。

4. 成果

いずれも健康市民大学は29名の参加があった。25名が7割以上の講座を受講し修了証の授与対象となった。受講者アンケートの満足度が高く、「楽しみにしていた」、「来年も参加したい」といった感想が寄せられたことから、好評だったといえる。

5. 課題

受講者の年代は、60～70歳代が中心であった。若い世代の参加を求めるのであれば、開催曜日や時間、講座内容の検討が必要である。引き続き出雲市と共催で実施し、同市の広報媒体を活用するなど幅広い周知を図りたい。

表1 2025年度公開講座実施状況

	テーマ	開催日時	講師	定員	受講者数
1	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第1回 心と体を温めておなかの赤ちゃんと一緒にリラックス（妊娠期）	令和7年6月19日（木） 10:00～11:30	永井真寿美 井上千晶 中谷陽子	10名	4名
2	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第2回 心と体を温めて分娩中の陣痛と上手に付き合うリラックス法（妊娠期）	令和7年8月20日（水） 10:00～11:30	中谷陽子 永井真寿美	10名	2名
3	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第3回 心と体を温めるベビーマッサージ（出産後）	令和7年11月19日（水） 10:00～11:30	井上千晶 中谷陽子 永井真寿美	10組	5組

表 2 2025 年度いづも健康市民大学実施状況 受講者 29 名

	講師	日にち	講座テーマ	出席者数
第1回	副学長 大森眞澄	5月20日（火）	開講式	25
	林健司		フレイルとは～フレイルチェック①～	
第2回	加藤さゆり	5月29日（木）	人生会議をはじめませんか	25
第3回	平井由佳	6月17日（火）	口腔の清潔と口腔のよくある疾患 ～歯周病と全身疾患への影響～	25
第4回	荒井恵美子	7月3日（木）	高齢者の食事で気を付けること～ 家庭でできる“嚥下調整食”のポイント～	22
第5回	荒木さおり	8月20日（水）	フレイル予防のための運動～フレ イルチェック②～	23
	松本祐香 板持智之			
第6回	松谷ひろみ	9月17日（水）	しなやかな“心”を育てるメンタ ルヘルス講座	26
第7回	澤幸子	11月5日（水）	栄養の力で支える！フレイル予防 講座	24
第8回	渡邊克俊	12月10日（水）	知って安心！間違いがちな冬場の 感染対策！	21
	学部長 高橋恵美子		閉講式	

表 3 2025 年度 浜田市・益田市での公開講座実施状況（浜田市：67 名，益田市 61 名）

浜田市	講師	開催日	講座テーマ	出席者数
第1回	山下一也	6月14日（土）	フレイルとは	14
第2回	加藤さゆり	6月28日（土）	人生会議をはじめませんか	13
第3回	平井由佳	7月27日（日）	口腔の清潔と口腔のよくある疾患	9
第4回	松谷ひろみ	9月21日（日）	しなやかな“心”を育てるメンタルヘルス講座	10
第5回	澤幸子	11月30日（日）	栄養の力で支える！フレイル予防講座	13
第6回	渡邊克俊	12月21日（日）	「知って安心！間違いがちな冬場の感染症対策」	8

益田市	講師	開催日	講座テーマ	出席者数
第1回	山下一也	6月7日（土）	フレイルとは	13
第2回	加藤さゆり	6月21日（土）	人生会議をはじめませんか	10
第3回	平井由佳	7月26日（土）	口腔の清潔と口腔のよくある疾患	9
第4回	松谷ひろみ	9月20日（土）	しなやかな“心”を育てるメンタルヘルス講座	10
第5回	澤幸子	11月29日（土）	栄養の力で支える！フレイル予防講座	11
第6回	渡邊克俊	12月20日（土）	「知って安心！間違いがちな冬場の感染症対策」	8

Ⅱ. ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

石見銀山テレビ放送が放映する出前講座を通して、島根県立大学教員が、地域住民が健やかな生活を送るために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

本事業は 2010 年から開始された。

2025 年度はいつも健康市民大学の講座のうち、1 講座を収録し放映。

3. 事業実施状況

講座テーマ：栄養の力で支える！フレイル予防講座

講師：澤幸子准教授

収録：11 月 5 日

放送：2 月 14 日・2 月 15 日（2 回）の計 3 回

4. 成果

今年度は、昨年までの出前講座用の内容ではなく、いつも健康市民大学のなかの 1 講座を収録しロング版（50 分）として放映された。

5. 課題

次年度以降もいつも健康市民大学の講座を収録したものを配信予定である。日時が決定し、撮影承諾が得られた講座を収録するため、調整を早めに行っていく必要がある。

I. NP0 法人・関係団体・企業との連携：いずも産業未来博 2025 への出展

1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスでの教育，研究，地域貢献活動について紹介し，来場者に本学に興味を持っていただくことを目的とする。

2. 事業内容

いずも産業未来博実行委員会主催の「いずも産業未来博 2025」に出展した。

3. 事業実施状況

1) 日 時：2025 年 11 月 8 日（土）・9 日（日）10:00～16:00

2) 場 所：出雲ドーム（出雲市矢野町 999）

3) 参加者：8 日（土）教職員 3 名，学生 2 名

9 日（日）教職員 5 名，学生 2 名

4) 展示内容：「島根県立大学 出雲キャンパス」として 2 ブース使用

■島根県立大学紹介 大学案内，各種リーフレット・パンフレット配布

■ポスター展示 渡邊克俊講師，西本亜希子講師，松本祐香助教，鉦貴裕助教，
亀山良子教授，籠橋有紀子教授，川谷真由美助手のポスターを展示

■高齢者の認知度チェック

■子ども白衣体験

■クイズ形式のアンケート

■配布 広報誌オロリン，大学案内，ひものデボーノ チラシ，台雲美 チラシ
オロリンクッキー，不織布バッグ，図書館クリアファイル，付箋，
オロリンククリアファイル，エコバッグ

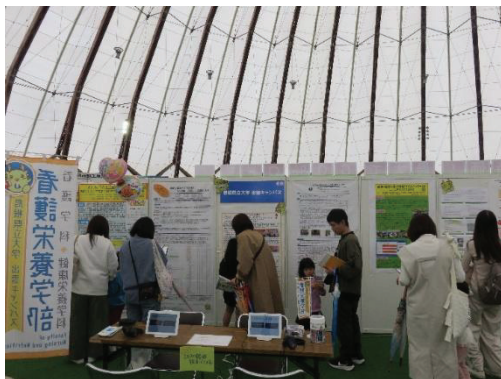
4. 成果

本学のブースに 2 日間で約 280 名の来場者があり，ポスター展示，高齢者の認知度チェック，子ども白衣体験，クイズ形式のアンケートを実施した。

1 ポスター1 クイズ形式のアンケートにより，アンケートに答えるためにじっくりと展示ポスターを見ていただくことができ，結果として，ポスターを通して本学の活動に興味を持っていただくきっかけとなった。また，本学の地域貢献活動についても周知することができ，本学の教育，研究，社会活動について普及することができた。

5. 課題

予測以上の来場者により，アンケート回答者へ配布する景品が，後半、不足してしまったことが課題である。また，高齢者の認知度チェックの声掛けが難しかったことから，気軽に立ち寄れる工夫（貼り紙やポスター掲示等）が必要である。



Ⅱ. 高大社連携事業（奥出雲町・益田市）

1. 目的

高校生に医療に携わる魅力を知ってもらうことを目的とし、①参加者が医療人になるプロセスがイメージできる、②参加者が医療人になった後の道がイメージできる、③保健医療スタッフが自分たちの仕事の意義を再認識できる、この3つを目標に掲げ事業を行った。

2. 事業内容

高大社連携事業として、対象地域の病院医師と島根県立大学学長の基調講演、病院や行政の専門職によるパネルディスカッション、高校生によるグループワークを実施した。2025 年度は奥出雲町と益田市の2地域で開催した。

3. 事業実施状況

1) 奥出雲町での高大社連携事業

- (1) 日 時：2025 年 5 月 18 日（日）13:00～15:50
- (2) 場 所：奥出雲健康センター
- (3) 参加者：高校生 16 名，県大生 5 名

2) 益田市での高大社連携事業

- (1) 日 時：2025 年 10 月 12 日（日）13:00～15:50
- (2) 場 所：益田地区医療センター益田医師会病院
- (3) 参加者：高校生 11 名，県大生 4 名，石見高看学生 2 名



4. 成果

回収されたアンケートからは、参加者の満足度も高く、目標も達成されたと考える。講演やパネルディスカッションでは地域医療の魅力、それぞれの職業の魅力、職業選択の道筋などわかりやすく伝えていただき、高校生が医療人のイメージの具体化や医療人を目指す進路決定の一助となった。グループワークでの学生との交流により、医療職を目指す学ぶ過程のイメージ化にもつながったと考えられる。

5. 課題

高校側と時期の調整をして開催日を決定したが、応募が少なく関係機関に追加募集を依頼した経緯があった。また、中学生の参加も検討したものの参加は得られなかった。参加者が参加しやすい時期の設定、魅力的な PR 方法の検討、学校側との趣旨の確認などについての検討を続けていく必要がある。

Ⅱ－3. 2025 年度事業実績
－認定看護師養成部－

I. フォローアップ研修に関すること

1. 目的

それぞれの看護専門分野において、熟練した看護技術と知識を用いた水準の高い看護実践のできる認定看護師に必要なスキルアップを図る。

2. 事業内容

2024 年度 感染管理認定看護師教育課程（B 課程）修了生を対象とする、2025 年度認定看護師認定審査受験に向けたフォローアップ研修を行う。

本学修了生（緩和ケア，認知症看護）を対象とする認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修の開催に向けて、プロジェクト会議を開催し、修了生等との連絡調整を行いながら、研修の企画運営を行う。

3. 事業実施状況

1) 2024 年度 感染管理認定看護師教育課程（B 課程）修了生のフォローアップ研修

感染管理認定看護師教育課程（B 過程）修了生のフォローアップ研修を 4 回行った（5 月 23 日，6 月 27 日，8 月 1 日，9 月 19 日）。修了生 12 名が 10 月 8 日に行われた 2025 年度認定看護師認定審査を受験し，全員が合格した。

2) 本課程修了生（緩和ケア，認知症看護）によるフォローアップ研修の企画に関するサポート

2024 年度に開催したフォローアップ研修でのアンケート結果（研修テーマの希望）について，各修了年度の代表によるフォローアップ研修メンバーと情報共有を実施した（6 月 30 日 Web，9 月 29 日対面，11 月 26 日 Web）。認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修のテーマ選定，開催時期について協議を行い，2026 年度の開催時期と研修テーマが決定した。

4. 成果

感染管理認定看護師教育課程（B 課程）修了生全員が認定審査に合格することができた。

フォローアップ研修メンバーによって協議した結果，2025 年度は企画・準備を行い，2026 年度にフォローアップ研修を開催することが決定した。

5. 課題

認定審査を控えた修了生に対しては，審査に向けてモチベーションを維持しながら学習が継続できるよう，定期的にフォローアップ研修を実施する必要がある。認定審査への申請方法を説明する回を設けるなど，修了生が安心して認定審査に臨めるようなサポートは今後も必要である。

修了生（緩和ケア，認知症看護）が研修の企画・運営の一部を担う事も認定看護師に必要なスキルのひとつであると位置づけている。緩和ケア・認知症看護それぞれの領域に共通する課題の選定を慎重に行い，実践の場で看護の専門性とその質の維持・向上を目指していけるよう，また，修了生の企画・運営力の向上の機会となるようフォローアップ体制の整備・継続をしていく。

I. 教育課程開設に関すること

1. 目的

認知症看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認知症看護認定看護師を育成する教育課程を開講する。

2. 事業内容

島根県の委託を受け、認知症看護認定看護師養成に必要な教育課程，講師・実習施設等の案を協議し，認知症看護認定看護師教育課程（B 課程）の令和 8 年度開講にむけた準備と申請を行う。

3. 事業実施状況

- 1) 認知症看護認定看護師教育課程（B 課程）開講申請のための設置担当者会議を 11 回開催した。
- 2) 認知症看護認定看護師養成に必要な履修要項，実習要項等を作成し，日本看護協会へ認定申請を行った。
- 3) 認知症看護認定看護師教育課程（B 課程）開講の承認を受けた。

4. 成果

大学内外の関係者，講師の協力を受け要項の作成を行い，認知症看護認定看護師教育課程（B 課程）開講の認定を受けることができた。

5. 課題

開講初年度であり，円滑で効果的な教育課程の遂行ができることにある。

I-2. 学生募集・入学者試験に関すること

1. 目的

認知症看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる認知症看護認定看護師養成のための学生募集と、入学者選抜試験を行う。

2. 事業内容

認知症看護分野の学生募集と入学者選抜試験の準備及び入学者選抜試験を実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 認知症看護認定看護師教育課程（B 課程）開講に関する設置担当者会議を 11 回開催した。
- 2) 開講案内、開講決定案内、事前説明会案内、募集要項、リーフレット等の作成と県内関先への配布を行った。配布部数（募集要項 150 部、リーフレット 400 部）。
- 3) 受験生確保対策として、県内の関係施設を訪問した。
- 4) 事前説明会を開催し、内容は以下の通りで、延べ 12 名の参加があった。

日時	9 月 2 日（火）	10 月 2 日（木）
方法	オンライン（ZOOM）	
人数	8	4

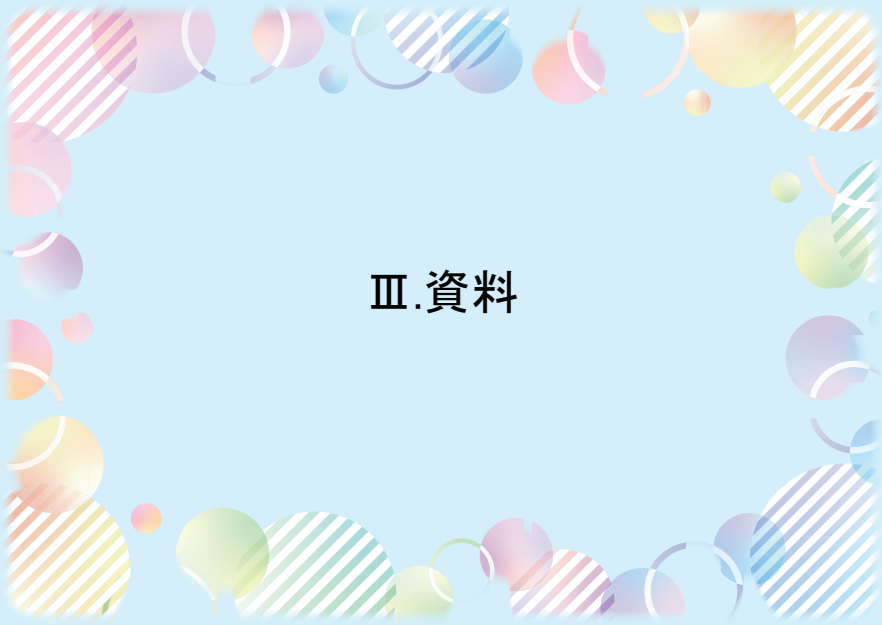
- 5) 入試委員会を 2 回開催した。入学者選抜試験の方法についての協議及び合否判定を行った。
 - 6) 入学者選抜試験の実施
 - (1) 入学願書受付：令和 8 年 1 月 5 日（月）～1 月 13 日（火）
 - (2) 入学者選抜試験：令和 8 年 2 月 7 日（土）
 - (3) 合格発表：令和 8 年 2 月 12 日（金）…6 名の合格発表を行った。
- *上記、入学願書受付期間において、募集定員を満たさなかったため、二次募集実施案内、および、二次募集要項を県内関係先（病院、訪問看護ステーション）に配布したが、出願はなく入学者選抜試験（二次）は実施しなかった。
- 7) 教員会を 1 回開催した。

4. 成果

開講案内、開講決定案内、事前説明会、リーフレット配布および募集要項配布を実施したが、定員 10 名を満了受験者の確保には至らなかった。計画通りに入学者選抜試験の実施と合格者の発表を行った。

5. 課題

次年度に向けての受験生の確保が必要である。募集要項等の配布先、試験開催時期、事前説明会の工夫について検討する。また、病院訪問による受験者のリクルートを積極的に実施し、同時に長期研修に看護師を送り出す病院の課題についても情報を得て対策を検討する。



Ⅲ.資料

I. 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状況

2025 年度は全体で 82 件の各種審議会，委員会等へ所属し，活動を行った。

内訳は，表 1 のとおりである。

表1 2025 年度に教員が参加した審議会・委員会の内訳

	依頼元機関	件数
1	医療機関等	3 件
2	教育機関等	6 件
3	自治体等	42 件
4	職能団体等	12 件
5	その他	19 件
合 計		82 件

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター組織運営規程

平成 25 年 10 月 1 日

島根県立大学規程第 1 1 1 号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則第 38 条に規定する、看護栄養交流センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等の資質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的とする。

(組織)

第3条 センターの目的を果たすため、センターに次の部を置く。

- (1) キャリア・研究支援部
- (2) 地域連携推進部
- (3) 認定看護師養成部

2 前項に規定する部にプロジェクトを配し、部の具体的な事業を展開する。

(職員)

第4条 センターは、島根県立大学出雲キャンパス合同会議専門委員会規程別表 1 に規定する地域連携推進委員会委員及びセンター長がセンターの運営に必要と認めた教職員を構成員とする。

2 センターに、センター長のほか次に掲げる職員を置く。

- (1) 前条第 1 項各号に掲げる部の部長（以下「部長」という。）
- (2) 前条第 2 項に規定するプロジェクトのプロジェクトリーダー（以下「プロジェクトリーダー」という。）

(部長)

第5条 部長は、第 3 条第 1 項各号の部の業務を掌理する。

2 部長は、第 4 条に規定するセンター構成員の中から、センター長が指名する。

3 任期は 1 年とし、再任を妨げない。

(プロジェクトリーダー)

第6条 プロジェクトリーダーは、第 3 条第 2 項に規定するプロジェクトで展開する事業を推進する。

2 プロジェクトリーダーは、第 4 条に規定するセンター構成員の中から、センター長が部長と協議の上、決定する。

3 任期は 1 年とし、再任を妨げない。

(運営会議)

第7条 センターに、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置き、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関すること。
- (2) 事業計画の策定及び進行管理に関すること。

- (3) その他センターの運営に必要なこと。
- 2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。
- (1) 副学長
 - (2) 看護栄養学部長
 - (3) 看護学科長
 - (4) 健康栄養学科長
 - (5) 別科長
 - (6) センター長
 - (7) 島根県立大学出雲キャンパス合同会議専門委員会規程別表 1 に規定する地域連携推進委員会委員
 - (8) 事務部長
 - (9) 管理課長
 - (10) 学務課長
 - (11) 事務部職員
- 3 運営会議はセンター長が招集し、センター長は議長となる。
- 4 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
- 5 運営会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席により成立し、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 議長は、運営会議の構成員以外の本学の教職員又は外部有識者を運営会議に出席させて説明を求め、又は意見を述べさせることができる。

第8条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 3 項、第 6 条第 3 項の規定に関わらず、この規程の施行日に部長、プロジェクトリーダーとなった者の任期は、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

2025 年度 看護栄養交流センター成果報告書（第 7 号）

編集・発行 2026 年 3 月
島根県立大学出雲キャンパス 看護栄養交流センター
〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151 番地
TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0201
<https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/koryucenter/>

